

海洋安全保障情報月報

2009年1月号



目次

2008年下半期の回顧

- 治安
- 軍事
- 外交・国際関係
- 海運・資源・環境・その他

2009年1月の主要事象

1. 情報要約
 - 1.1 治安
 - 1.2 軍事
 - 1.3 外交・国際関係
 - 1.4 海運・資源・環境・その他
2. 情報分析

2008年の海賊行為と武装強盗事案（IMB年次報告書から）

別添1：IMB報告書等に見る2008年アデン湾・ソマリア沖ハイジャック事案とその後の状況（2008年12月31日現在）

別添2：1.2009年におけるアデン湾・ソマリア沖のハイジャック事案の状況（2月15日現在）

2.2008年におけるアデン湾・ソマリア沖のハイジャック事案中、未解決事案の状況（2月15日現在）

本月報は、公表された情報を執筆者が分析・評価し要約・作成したものであり、情報源を括弧書きで表記すると共にインターネットによるリンク先を掲載した。

発行者：秋山昌廣

執筆者：秋元一峰、犬塚勤、今泉武久、上野英詞、國見昌宏、小谷哲男、友森武久、高田祐子

本書の無断掲載、複写、複製を禁じます。

2008 年下半期の回顧

治安：下半期の特徴は、ソマリアの海賊による襲撃事案の急増と、これに伴って国連や各国の海賊対策が本格化したことである。IMB の 2008 年報告書によれば、下半期には、ソマリア沖で 6 件、アデン湾で 27 件のハイジャック事案があった。こうした事態に対して、各国や NATO、EU などが海軍戦闘艦を派遣し、また国連安保理が新たな決議を採択し、国際海運業界が緊急アピールを出すなど、国際社会の本格的な対応が始まった。

日本財団と海洋政策研究財団は 11 月 14 日、東京で「ソマリア沖海賊対策緊急会議」を開催し、緊急提言を発表し、政府に提出した。

国連安保理は 12 月 2 日、ソマリア海賊対策決議第 1846 を全会一致で採択した。決議第 1846 の趣旨は、6 月 2 日に採択された決議第 1816 が加盟国に認めた措置を、更に 1 年間延長するものである。また国連安保理は 16 日、ソマリア海賊対策決議第 1851 を全会一致で採択した。決議第 1851 の大きな特徴は、12 月 2 日の決議第 1846 によって 1 年延長された加盟国が取り得る「必要なあらゆる措置」を、「ソマリア国内において必要とされるあらゆる措置」とすることで、海賊対処のために同国の陸上における軍事作戦を可能にしたことにある。また、共通のコンタクト・ポイントとなる国際的な協力メカニズムや情報調整センターの設置を慫慂している。こうした国連安保理決議に基づいて、12 月から、EU を始めとする派遣各国の海軍戦闘艦のソマリア沖での活動が目立ち始めた。特に中国の派遣艦隊が 12 月 26 日に、ソマリア沖に向けて出航したのが注目された。

軍事：香港の軍事専門家、アンドレ・チャンは、中国海軍東海艦隊の航空隊施設を含む基地施設の拡充について、7 月 15 日付の UPI Asia Online に長文の論説を寄稿し、寧波、舟山諸島の海軍基地の拡充の状況について詳報した。それによれば、中国海軍の海南島三亜の南海艦隊第 2 潜水艦隊基地と北海艦

隊第 1 潜水艦隊基地がいずれも地下施設になっていることが、衛星写真で確認されている。東海艦隊の潜水艦基地も地下化が進められている。

一方で、ロシア海軍の活動が活発化している。ロシア海軍は 7 月 14 日、スピッツベルゲン海域に北洋艦隊から戦闘艦 2 隻を派遣した。ロシア海軍によれば、スピッツベルゲン海域を含む、北極海域における海軍力のプレゼンスが強化される。ロシアのヴィソツキー海軍司令官は 7 月 27 日の「海軍の日」の式典で、2012 年から 5~6 隻の空母を建造し、北洋艦隊と太平洋艦隊に配備する、と語った。ロシアは 9 月 22 日、北洋艦隊の原子力巡洋艦、*Peter the Great* を旗艦として、他の 3 隻の戦闘艦と共に、西半球に派遣し、ベネズエラ海軍と合同訓練を実施した。そして、ロシア海軍駆逐艦、*Admiral Chabanenko* は、カリブ海でのベネズエラとの合同演習後、12 月 5 日の夜間、パナマ運河を通峡し、太平洋に出た。これは、ソ連時代を含め、第 2 次大戦後初めてのことであった。

米空母、USS *George Washington* (CVN 73) は 8 月 21 日、約 5,500 人の乗組員と共に、カリフォルニア州サンディエゴの海軍基地から横須賀に向けて出港した。*GW* は 9 月 25 日、米海軍横須賀基地に入港した。原子力空母の米本土以外への配備は初めてである。

外交・国際関係：この分野では、国境確定を巡る動きが目立った。中ロ両国は 7 月 21 日、東部国境に関する議定書に調印した。議定書によれば、ロシアは、アムール川の Tarabarov 島全部と Bolshoi Ussuriysky 島の半分（約 375 平方キロ）を中国に引き渡す。この議定書によって中ロ間の国境河川の画定が完了した。

ペルシャ湾岸 6 カ国で構成する湾岸協力会議 (GCC) は 9 月 3 日、声明を発表し、イランがホルムズ海峡の島嶼に管理事務所を設置したことを非難した。Abu Musa、Greater Tunb 及び Lesser Tunb の 3 つの島嶼はイランが占有しているが、アラブ首長国連邦 (UAE) が領有権を主張しており、他のアラブ諸国から広範な支持を得ている。GCC は、こ

うしたイランの措置がホルムズ海峡を通航する船舶に対するイランの統制力を強めることを懸念している。

バングラデシュとインドは9月15日、28年ぶりに海洋境界画定交渉を再開した。主たる問題は、海洋境界画定の出発点として、両国の南西国境を流れる Hariabhanga 川の主流を判定することである。一方では、バングラデシュとミャンマーとの海洋境界を巡る交渉は難航しているが、両国間には11月初め、韓国の石油会社が両国の海洋境界を巡る紛争海域で試掘を開始し、これにミャンマーが2隻の海軍戦闘艦を派遣してエスコートし、これに対してバングラデシュが4隻の海軍戦闘艦を派遣したことから、4日間にわたって緊張した局面が見られた。

国連大陸棚限界委員会 (CLCS) は9月22日、ニュージーランドに対して大陸棚外側限界の延伸勧告を行った。

海運・資源・環境・その他：アデン湾、ソマリア海域での海賊事案の多発に対する対策として、一部の海運会社は、自社船舶をスエズ運河経由から喜望峰周りに変更した。デンマークの世界的な曳航・サルベージ会社、Svitzer は、ソマリア近海における海賊攻撃のリスクを避けるため、全ての自社船舶を常時、スエズ運河経由から喜望峰周りに変更したことを、大手海運会社としては初めて公式に認めた。ノルウェーの海運会社、Odfjell は11月10日、海賊事案が多発するアデン湾経由航路を使用せず、今後、より長く、また費用が嵩むが、より安全な喜望峰周りの航路を使用する、と発表した。デンマークの海運大手、A.P. Moller - Maersk は11月20日、当分の間、速度が遅く、乾舷の低い自社船舶を、マダガスカル東側と喜望峰経由とするが、これらの船舶をエスコートする態勢ができれば、エスコート船団に参加してアデン湾を航行することになる、と発表した。同社によれば、この方針は主にタンカーに適用され、コンテナ船は3隻が対象となる。

日本郵船と新日本石油が共同開発した、世界初の太陽光エネルギー船、MV *Auriga Leader* (6万213DWT) が12月19日、神戸港から出帆した。該

船は328枚のソーラー・パネルを備えており、40万キロワットの発電能力を持つ。他方、トルコの造船会社、Cicek Shipyard は、9月23-26日にハンブルグで開催された、SMM 2008 フェアで、新型の2万5,000DWT 級ばら積み船のデザインを公表した。同社は、このクラスの現有ばら積み船が老朽化しつつあり、エンジンも15~20年前の製造で、運航コストに苦しんでいることから、多くの船主からの受注を期待している。

2009年1月の主要事象

治安：1月には、ハイジャック事案が3件と少なかったが、2008年のハイジャック船で、越年した船舶の解放が相次いだ。ソマリアの海賊は9日、サウジの大型タンカー(リベリア籍船)、MT *Sirius Star* (31万9,430DWT)を解放した解放に当たっては、300万米ドルの身代金が支払われたといわれる。1月には、8件のハイジャック船が解放され、身代金は1,000万米ドルを超えたと推測されている。

国際海事局(IMB)は16日、2008年に世界で起きた船舶への海賊行為と武装強盗事案に関する報告書を公表した。それによれば、全世界で293件の襲撃事案があったが、その内、111件がアデン湾とソマリア沖であった。同報告書の詳細は、2.情報分析参照。

一方で、ソマリア沖に派遣された各国海軍戦闘艦の活動も活発化してきている。特にフランス海軍は、海賊襲撃船救援の過程で、3回にわたって海賊容疑者を拘束した。また、中国の派遣艦隊は12日、台湾船舶を護衛した。バーレーンの連合海軍部隊(CMF)は8日、海賊対処に特化した任務部隊、CTF-151を新編した。CTF-151は、アデン湾、アラビア海、インド洋及び紅海とこれら周辺海域において、対海賊任務を遂行する多国籍海軍任務部隊で、海洋秩序を確立すると共に、海洋環境の安全を促進するために設置された。

韓国は20日、ソマリア沖に海軍戦闘艦を派遣することを閣議決定した。スペイン国会は21日、EU艦隊への海軍戦闘艦2隻と395人の兵員派遣を承認した。スペインは既に、2008年9月にP-3哨戒機を70人の兵員と共にジブチのフランス空軍基地に派遣している。スウェーデン政府は29日、コルベット2隻、支援艦1隻及び治安部隊からなる、約160人規模の部隊を、ソマリア沖に派遣することを決定した。

軍事：中国政府は20日、「2008年国防白書」を発表した。白書では「強大な海軍力の建設に努力する」とし、海軍力をこれまで以上に増強する姿勢を示した。

外交・国際関係：米国のブッシュ大統領は9日、北極海政策に関する大統領令に署名した。同大統領令は、北極海に関して国家安全保障および本土防衛上の必要性を満たすことなどの政策を提唱している。

海運・資源・環境・その他：英国のLNG World Shippingによれば、世界のLNGタンカーの就役隻数は300隻を超えた。

インド洋のマグロ漁は、ソマリアの海賊の影響で、2008年の漁獲量は最大で30%減となっている。インド洋マグロ委員会によれば、フランスとスペインの漁船団は、ソマリア沖からかなり東方沖で操業しなければならなかったし、漁獲量も通常の50%程度であった。

1. 情報要約

1.1 治安

1月1日「ソマリアの海賊、エジプト船をハイジャック」(AP, January 1, 2009)

ソマリアの海賊は1日、エジプト籍船の貨物船、MV *Blue Star* をハイジャックした。該船は28人乗り組みで、紅海を出てアデン湾に入った海域で15人の武装した海賊に襲撃された。該船は、6,000トンの肥料を積んでいた。該船はハイジャック後、ソマリア沿岸に向かった。

同じ1日、マレーシア海軍のフリゲート、KD *Sri Inderah Sakti* は、海賊によるインドのタンカーのハイジャックを阻止した。クアラルンプールの海賊通報センター (PRC) のノエル・チョーン所長によれば、原油を満載し、スエズ運河を目指して紅海に向かっていたインドのタンカーが2隻の高速ボートに乗った、ソマリア人と見られる海賊に襲撃された。その内、1隻のボートには軍服スタイルの服を着た7人の海賊が乗っていた。彼らは、該船に近づき、機関銃を発射し、ブリッジと居住区に被害を与えた。彼らは数回にわたって射撃を繰り返しながら、該船に乗り込もうと試みた。該船は、速度を最大船速に上げ、回避行動を取りながら、SOSを発信した。15カイリ離れた海域にいたKD *Sri Inderah Sakti* はSOSを受信してヘリを発進させ、ヘリは数分以内に現場海域に到着した。海賊は射撃を止めて、逃亡した。乗組員に怪我はなかったが、船体に被害を受けた。チョーン所長は、フリゲートが現場にいなかったら、該船は確実にハイジャックされていたであろう、と語った。

1月1日「フランス海軍、8人の海賊容疑者を拘束」(AFP, January 2, 2009)

アデン湾を哨戒中のフランス海軍のフリゲート、PM *L'Her* は1日、パナマ籍船の貨物船、MV *S. Venus* からの救難信号を受け、現場海域に向かったが、到着する前に、海賊は襲撃を中止していた。その後再び、約40キロ離れた海域から該船からの救難信号を受け、救難に向かった現場海域で、該船の乗組員から海賊の襲撃ボートと確認された2隻の小型ボートを発見した。フランス海軍の特殊部隊は、8人のソマリア人の乗った2隻のボートに停船を命じた。ボートからは、AK47自動小銃、ロケット推進擲弾筒、弾薬、フックの付いた2本のはしご、GPSなどが発見され、押収された。8人のソマリア人海賊容疑者はフリゲートに収容され、ソマリア当局に引き渡されることになろう。

フランス海軍特殊部隊が拘束した、ソマリア人海賊容疑者。手前のボートには、フック付きの乗り込み用のはしごが見える。右の写真は押収した武器。中央がロケット推進擲弾筒。

Source: AFP, January 3, 2009

【関連記事】

「フランス海軍、海賊容疑者をソマリア当局に引き渡し」(Reuters, January 2, 2009)

ソマリアのプントランド自治政府治安大臣が2日に明らかにしたところによれば、フランス海軍は、8人の海賊容疑者をプントランド自治政府に引き渡した。同大臣は、「我々は、その他の国々にも海賊と戦い、容疑者を我々に引き渡すことを求める」と語っている。一部の専門家は、プントランド自治政府が海賊行為に加担しており、政府当局も弱体であると見ているが、現在、96人の海賊容疑者が自治政府の獄中にあるという。一方、フランスは、対海賊作戦において特に活動的で、2008年4月以来、4回の武力行使で29人の海賊容疑者を拘束し、その一部はフランス国内で裁判待ちである。

1月2日「ギリシャ船、海賊襲撃から脱出」(AP, January 2, 2009)

アデン湾でギリシャ籍船のタンカー、MT *Kriti Episkopi* (14万5,242DWT) が2日、3隻の高速ボートに乗った海賊に襲撃された。海賊は、銃とロケット推進擲弾筒で武装しており、2度にわたって該船に乗り込もうとした。該船は、高圧放水砲を使用すると共に、付近にいたEU艦隊のスペイン海軍の哨戒機とヘリが現場に到着し、難を逃れた。その後、オランダ海軍のフリゲートも現場に到着した。該船は、原油を積載して、ペルシャ湾からギリシャに向かう途中であった。船体と乗組員に被害がなかった。

1月2日「ソマリアの海賊、イエメン漁船解放」(Ecoterra International, January 2, 2009)

ソマリアの海賊は2日、イエメン漁船、FV *Al-Qana'a* を解放した。イエメン沿岸警備隊によれば、該船が1日にアデン港に到着した時には、8人のイエメン人漁民が乗っていた。沿岸警備隊当局によると、身代金は支払われていない。該船は2008年12月10日にもう1隻の漁船と共にハイジャックされたが、沿岸警備隊当局は当初、これら2隻は海賊の「母船」として使用するためにハイジャック

されたと見ていた。

1月2日「デンマーク海軍、オランダ船のハイジャック阻止」(AFP, January 3, 2009)

デンマーク海軍の駆逐艦、HDMS *Absalon* は2日、アデン湾でオランダ領アンティル籍船の貨物船、MV *Samanyolu* を海賊の襲撃から救助した。該船は高速ボートに乗った5人の海賊から襲撃されたが、HDMS *Absalon* から飛来した武装ヘリが警告射撃を行った。一方、貨物船は海賊のボートに火炎信号弾を発射した。駆逐艦の乗組員は、炎上した海賊のボートから海中に飛び込んだ海賊を救助した後、ボートを沈めた。拘束された海賊は、デンマーク海軍が彼らの取り扱いを決定するまで、駆逐艦に拘置される。

【関連記事 1】

「デンマーク海軍、明確なガイドラインなし」(The Copenhagen Post, January 8, 2009)

デンマーク海軍は、拘束した5人の海賊容疑者の取り扱いについて、明確なガイドラインを持っておらず、8日現在、HMS *Absalon* に拘束されたままである。デンマーク海軍は、2008年9月18日にも10人の海賊容疑者を拘束したが、国内法廷で裁くこともできず、またソマリア当局に引き渡しても死刑にされる恐れがあるとの理由から、結局釈放せざるを得なかった。デンマーク外務省は、オランダ当局と海賊容疑者の取り扱いについて協議しているが、未だ決定がなされていない。(備考：9月18日の事案については、OPRF 海洋安全保障情報月報 2008年9月号 1.1 治安参照。)

【関連記事 2】

「オランダ、デンマークと海賊容疑者引き渡し協定調印」(Lloyd's List, January 19, 2009)

オランダは19日、デンマークとの間で、5人のソマリア人海賊容疑者の引き渡し協定に調印した。オランダ検察当局は、これらソマリア人を海賊容疑で起訴する手続きを開始した。彼らはオランダで最長で9～12年の懲役刑に服することになる。

1月3日「ソマリアの海賊、イエメン船をハイジャック」(Yemen News Agency, January 3, 2009)

ソマリアの海賊は3日、イエメンの貨物船をハイジャックした。該船は、マフラ州のナシュトゥーンに2,000トンのディーゼル油を運搬していた。イエメン当局は、解放を求めて海賊と接触中という。

Somali pirates hijacked Yemeni cargo ship

<http://www.sabanews.net/en/news172827.htm>

1月4日「フランス海軍、19人の海賊容疑者拘束」(AP, January 5, 2009)

フランス政府によれば、フランス海軍のフリゲート、*Jean de Vienne* は4日、アデン湾を哨戒中、クロアチア籍船の貨物船、MV *Donat* とパナマ籍船の貨物船、MV *Vultur* からの救難信号を受け、現場に向かった。*Jean de Vienne* は、MV *Donat* に乗り込もうとしていた、10人のソマリアの海賊が乗った2隻のボートを阻止すると共に、スペインの哨戒機の支援を得て、MV *Vultur* を襲撃しようとしていた9人のソマリアの海賊を阻止した。3隻のボートには、11丁の強襲ライフル、2発のロケット弾と2基のロケットランチャー、乗り込み用のはしご、1,000リッターの燃料が積み込まれていた。フランス国防省によれば、*Jean de Vienne* に拘束された19人のソマリアの海賊は、ソマリア当局に引き渡されることになっている。

1月6日「マレーシア海軍、アデン湾から撤退へ」(Shiptalk, January 7, 2009)

マレーシア海軍は、世界的な経済危機によって海賊の増加が予想されることから、2009年はマラッカ海峡の警備を一層強化することになる。アジズ (ADM Abdul Aziz) 海軍司令官は6日、海軍は、マラッカ海峡の警備を強化するために、海洋法令執行庁 (MMEA) と密接に協力すると語り、現在、アデン湾で対海賊哨戒作戦に当たっている、駆逐艦、KD *Sri Indera Sakti* を2月に帰国させ、マラッカ海峡に配備することを明らかにした。同司令官はまた、インドネシア、シンガポール及びタイとも、マラッカ海峡の哨戒活動を強化するために協力する、と述べた。

1月6日「中国ソマリア派遣艦隊、護衛任務開始」(Xinhua, January 6 and January 12, 2009)

中国ソマリア派遣艦隊は6日、アデン湾海域に到着し、最初の護衛任務を開始した。香港籍船を含む4隻の中国商船を護衛する。派遣艦隊司令官の杜景臣海軍少将 (RADM Du Jingchen) は、護衛任務に当たって、「我々は、国連決議と関係国際法規を厳格に遵守する」と語った。

中国派遣艦隊、護衛任務開始

Source: PLA Daily, January 7, 2009

http://english.chinamil.com.cn/site2/special-reports/2009-01/07/content_1610562.htm

【関連記事 1】**「台湾、ソマリア沖に海軍戦闘艦派遣の可能性を検討」(The Taipei Times, January 9, 2009)**

台湾の趙建民行政院大陸委員会副委員長は 8 日、台湾はソマリア沖に海軍戦闘艦を派遣する可能性について国家安全保障機関で検討している、と語った。しかし、趙建民副委員長は、何時結論が出るかについては明言しなかった。

これに対して、陳肇敏国防部長は 18 日、派遣は困難と語った。陳肇敏部長は、その理由として、艦艇の不足、補給能力の欠如を挙げ、特にアデン湾までの航路上に外交関係を持つ同盟国がないことから、例え派遣できたとしても、燃料や水の補給などが困難である、と語った。(China Post, January 20, 2009)

【関連記事 2】**「中国派遣艦隊、台湾船を含む 4 隻の船舶護衛」(Xinhua, January 12, 2009)**

中国のソマリア派遣艦隊は 12 日、アデン湾で台湾船を含む 4 隻の船舶を護衛した。駆逐艦、「武漢」に護衛された 4 隻の船団の先頭と後尾の船舶には、海軍特別戦闘チームが乗船した。杜景臣司令官は、アデン湾における船舶の安全航行は台湾海峡兩岸の同胞の共通した願いである、と語った。

【関連記事 3】**「台湾、護衛を要請せず、護衛船舶はリベリア籍船」(The Central News Agency, January 13, 2009)**

この報道に対して、台湾の趙建民行政院大陸委員会副委員長は 13 日、台湾が中国艦隊に護衛を依頼したことはないし、また該船は台湾籍船でもなければ、台湾の海運会社が運航している船舶でもない、と語った。護衛された船舶が台湾の Formosa Plastics Group に所属する精製品タンカー、MT *Formosa Product Cosmos* であったことについて、趙建民副委員長は、該船はリベリア籍船で、韓国の海運会社に貸与されている、と指摘した。その上で、趙建民副委員長は、「大陸委員会は、台湾の海峡交流基金 (the Straits Exchange Foundation: SEF) に対して、アデン湾の中国艦隊に台湾関係船舶の護衛を要請したり、受け入れたりする権限を認めていない」とし、台湾は中国に護衛を求める用意もなければ、現時点でこの問題について交渉する用意もない、と強調した。北京の海峡兩岸関係協会 (the Association for Relations Across the Taiwan Straits: ARATS) は 2008 年 12 月 12 日、SEF に対して、SEF を通じて台湾船舶の護衛を要請することができる、と通告している。

【関連記事 4】**「米、アデン湾の海賊対処について台湾と協議」(The Central News Agency, January 13, 2009)**

米国の在台代表機関、米国在台協会 (the American Institute in Taiwan: AIT) は 13 日、声明を発表し、アデン湾の海賊対処について台湾と協議したことを明らかにした。AIT の声明はまた、米海軍は世界のどの海域であれ、救難信号を受信すれば、どの船舶も支援する責任を担っている、と述べている。AIT の報道官は、台湾船舶が救難信号を発信した場合の救助について協議したのみで、台湾船舶に対する米海軍の護衛を申し出たわけではない、と語った。

1 月 6 日「日本など 4 カ国、インドネシアの海上保安機関に支援申し出」(The Jakarta Globe, January 6, 2009)

インドネシアの海上保安機関、the Marine Security Coordination Agency (Bakorkamla) のハル

ドヨ長官 (RADM Budhi Hardjo) は、Bakorkamla の能力構築のために、中国、米国、ドイツ及び日本の 4 カ国が 2009 年中に援助を供与する意向を表明していることを認めた。同長官よれば、中国は海上監視衛星の製造支援を、米国は Bakorkamla のコンピューター画像処理能力の強化を、それぞれ表明している。これらは、インドネシア海域における船舶航行を追跡するために使用され、また気象庁のデータと照合することで危険海域に向かっている船舶に警告するシステムとしても利用できる。ドイツは、哨戒、監視及び救難任務に使用できる、2,000 トン前後の多機能船 1 隻の提供を申し出ている。他方、日本は、Bakorkamla の能力を今後 3 年間で強化するため、現金で 3 億米ドルを提供することに同意している。同長官は更に、「日本は既に、3 隻の巡視艇の提供を約束しており、また、数カ所の早期警戒システムの建設、合同演習、人的交流も支援してくれるであろう」と語った。(備考：日本は 2006 年 6 月 13 日、武器輸出 3 原則の適用外として、ODA による 3 隻の巡視艇供与を決定した。OPRF 海洋安全保障情報月報 2006 年 6 月号 1.1 治安参照)

1 月 7 日「ソマリアの海賊、トルコ船を解放」(Reuters, January 7, 2009)

ソマリアの海賊は 7 日、トルコの貨物船、MV *Yasa Neslihan* を解放した。該船は 2008 年 10 月 29 日、カナダから中国に向かっている航行中にアデン湾でハイジャックされた。トルコの船主は身代金を支払ったかどうかについては言及を避けているが、トルコの通信社は支払われたと報じている。20 人の乗組員は無事で、該船は中国への航行を再開する。

船主側の法律顧問は、身代金は空中投下された、と語った。ハイジャッカーは当初、500 万米ドルの身代金を要求していた。(Trade Winds, January 7, 2009)

1 月 7 日「ロシア太平洋艦隊派遣艦隊、アデン湾で護衛任務開始」(RIA Novosti, January 7, 2009)

ロシア海軍報道官によれば、太平洋艦隊からのソマリア沖派遣艦隊駆逐艦、*Admiral Vinogradov* は 7 日、アデン湾で 2 隻のロシア船の護衛任務を開始した。2008 年 10 月末から対海賊任務に当たっている、バルト艦隊のフリゲート、*Neustrashimy* は任務を終えることになるが、別命あるまで当面、ソマリア海域に留まることになっている。同報道官によれば、*Neustrashimy* は 2008 年末までに 50 隻以上の船舶の護衛に当たった。

1 月 8 日「連合海軍部隊、海賊対処任務部隊、CTF-151 を新編」(Combined Maritime Forces Public Affairs, Press Release, January 8, 2009)

バーレーンの連合海軍部隊 (CMF) は 8 日、海賊対処に特化した任務部隊、CTF-151 を新編した。CTF-151 は、アデン湾、アラビア海、インド洋及び紅海とこれら周辺海域において、対海賊任務を遂行する多国籍海軍任務部隊で、海洋秩序を確立すると共に、海洋環境の安全を促進するために設置された。

CMF の発表によれば、CMF は 2008 年 8 月、アデン湾に安全回廊 (MSPA) を設定し、海賊対処を支援してきた。しかしながら、CTF-150 の本来任務は、アデン湾、オマーン湾、アラビア海、紅海及びインド洋を管轄海域として、アフガニスタンにおける「不朽の自由」作戦に伴って、海上からのテロリストや武器の流入を阻止するための海上治安活動 (Maritime Security Operation: MSO) の実施である。CTF-151 の新編は、CTF-150 に本来任務に専念させる一方で、一部の戦力を対海賊任務に特化させることを狙いとしている。

連合海軍部隊司令官、ゴートニー米海軍中将 (VADM William E. Gortney) は、新編の狙いについ

て、「CMF には 20 カ国以上の国が参加しているが、一部の国は海賊対処任務権限を有していない。CTF-151 の新編は、これらの国を CTF-150 の下での任務に専念させることになる。CTF-151 には、他の国の参加も認められることになる」と語った。

CTF-151 の司令官には、米海軍のマクナイト海軍少将 (RADM Terence McKnight) が任命された。

【関連記事】

「CTF-151 旗艦、米海軍揚陸艦、ソマリア沖到着」(Strategy Page, January 20 and others, 2009)

米海軍揚陸艦、USS *San Antonio* (LPD 17、基準排水量 2 万 4,900 トン) は 20 日、ソマリア沖に到着した。同艦には、乗組員 360 人に加えて、通常 720 人の海兵隊部隊とその装備が搭載されている。同艦は、海賊対処を任務として新編された、CTF-151 の旗艦となる。海賊対処任務のために、数百人規模の特殊部隊が乗艦する。

更に同艦には、空母、USS *Theodore Roosevelt* (CVN 71) から 1 個対潜ヘリ飛行隊が移乗し、同艦は、洋上前方展開基地 (the afloat forward staging base: AFSB) となる。(Navy News Stand, January 23, 2009)

同艦には、海軍と沿岸警備隊から構成される、14 人の臨検・立ち入り・捜索・拿捕 (visit, board, search and seizure: VBSS) チームが乗艦している。(Navy News Stand, January 21, 2009)

VBSS チームが RHIB (高速機動ゴムボート) でアデン湾の海賊抑止のために、USS *San Antonio* から発進する場合には、海兵隊の狙撃小隊が護衛のために同行することになっている。(Navy News Stand, January 26, 2009)

USS *San Antonio*

http://www.navy.mil/view_single.asp?id=67968

1 月 9 日「ソマリアの海賊、サウジの大型タンカーを解放」(BBC News, January 9, 2009)

ソマリアの海賊は 9 日、サウジの大型タンカー (リベリア籍船)、MT *Sirius Star* (31 万 9,430DWT) を解放した。該船は 2008 年 11 月 15 日、200 万バレルの原油 (1 億米ドル相当) を積んで航行中、ケニア南東沖、450 カイリの公海でハイジャックされていた (地図参照)。解放に当たっては、300 万米ドルの身代金が支払われたといわれるが、サウジの船主は肯定も否定もしていない。身代金は、写真のように小型機からパラシュートで該船に投下されたと見られる。

Source: BBC News, January 9, 2009

Map: <http://news.bbc.co.uk/2/hi/africa/7752813.stm>

Photo: http://news.bbc.co.uk/2/shared/spl/hi/pop_ups/08/africa_enl_1231523771/html/1.stm

【関連記事】

「海賊 5 人、荒天で溺死」(AP, January 10, 2009)

MT *Sirius Star* を解放した海賊はボートで該船を離れたが、8 人が乗ったボートが荒天で転覆し、3 人が海岸に泳ぎ着いたが、他の 5 人は溺死したと見られる。

その後、海岸に打ち上げられた 1 人の溺死体のポケットから、プラスチックのバッグに入った 15 万 3,000 米ドルが発見された。(Trade Winds, January 12, 2009)

1 月 9 日「ソマリアの海賊、イラン船を解放」(Trade Winds, January 10, 2009)

ソマリアの海賊は 9 日、イランの海運会社用船のばら積み船（香港籍船）、MV *Delight* (4 万 3,218DWT) を解放した。イランの船主によれば、25 人の乗組員は無事で、またドイツからイラン向けの小麦も手付かずであった。該船は 2008 年 11 月 18 日にアデン湾でハイジャックされた。解放に当たって、身代金は支払われたかどうかは不明である。

1 月 11 日「ソマリアの海賊、日本関係船を解放」(Trade Winds, January 13, 2009)

ソマリアの海賊は 11 日、パナマ籍船のばら積み船、MV *African Sanderling* (5 万 8,798DWT) を解放した。21 人の乗組員は無事で、解放に当たって身代金が支払われたかどうかは不明である。該船は、日本の長鋪汽船の関係船で、2008 年 10 月 15 日にアデン湾でハイジャックされた。

1 月 12 日「ケニア外相、ウクライナ船解放のための身代金支払いを拒否」(Capital News, Kenya, January 12, 2009)

ケニアのウェタングラ (Moses Wetangula) 外相は 12 日、MT *Sirius Star* の身代金支払いを非難すると共に、ケニアは自国向け戦車を搭載した MV *Faina* の解放のために身代金を支払うようなことはしない、と語った。同外相は、ケニアは「犯罪者」に対して如何なる形であれ身代金の支払いに反

対してきたし、MV *Faina* が 2008 年 9 月 25 日にハイジャックされて以来、一貫した支払拒否方針を堅持してきたとし、「MV *Faina* の積荷は依然、海賊の手中にある。彼らの手中にある限り、ケニアは如何なる身代金も支払うつもりはない。積荷は生鮮品ではない。積荷は我々の物だが、責任の所在と保険については荷主側にある」と強調した。

MV *Faina* は、2008 年 8 月 5 日にハイジャックされた、ナイジェリアのタグボート、*Yenega Ocean* と共に、長期にわたって拘束されており、ハイジャック 2 日後に船長が死亡した。ニコルスキー (Vladimir Nikolsky) 船長代理は、AFP 通信との衛星電話で、船首側からのコンタクトが一度もないとし、多くの仲介者が解放に向けて関与しているが、「船主からの直接のコンタクトが唯一の解決策である」と訴えている。

アデン湾とインド洋には現在、推定 1,500 人の海賊がいると見られるが、その多くは漁民か沿岸警備隊出身者である。MV *Faina* のハイジャッカーは、MT *Sirius Star* のハイジャッカーと同じ氏族に属する。(注：該船は、2 月 9 日に 320 万米ドルの身代金で解放された。)

1 月 13 日「ソマリアの海賊、トルコ船を解放」(Ecoterra International, January 13, 2009)

ソマリアの海賊は 13 日、トルコ籍船のケミカルタンカー、MT *Karagol* (6,000DWT) を解放した。トルコの船会社によれば、乗組員は無事で、解放に当たっては、身代金が支払われた。該船は 2008 年 11 月 12 日、インドに向けて航行中にアデン湾でハイジャックされた。

1 月 13 日「ロシア海軍戦闘艦、海賊の襲撃を阻止」(AP, January 14, 2009)

クアラルンプールの海賊通報センター (PRC) のノエル・チョーン所長によれば、ロシア海軍戦闘艦は 13 日、アデン湾でソマリアの海賊に襲撃されていたオランダ籍船のコンテナ船、MV *Nedlloyd Barentsz* を救助した。それによれば、6 人の海賊がロケット推進擲弾筒を発射しながら、約 30 分にわたって該船を追跡し、乗り込もうとしたが、救難信号を受けたロシア海軍戦闘艦とヘリが現場海域に到着したことから、海賊は襲撃をあきらめた。

ロシア海軍の報道官によれば、駆逐艦、*Admiral Vinogradov* から発進した、Ka-27 ヘリが該船を襲撃していた 3 隻の高速ボートに警告射撃をし、3 人の海賊が負傷した。1 隻のボートはイエメン領海付近で停止し、*Admiral Vinogradov* から発進した臨検チームが他の 2 隻のボートからフック付きロープとガス・キャニスターを発見したが、漁具はなかった。

Admiral Vinogradov

http://3.bp.blogspot.com/_E-QOnTGFX_o/SW4LGNUa2DI/AAAAAAAAAGOc/Vtvd1QUZ1Q8/s1600-h/800px-AdmiralVinogradov1992.jpg

1月14日「日米中など24カ国と5つの国際機関、ソマリア海賊に関するコンタクト・グループを結成」(Lloyd's List, January 15, 2009)

日米中など24カ国と5つの国際機関は14日に国連本部で会合し、アデン湾における海賊対処行動を調整する、「ソマリア沖の海賊に関するコンタクト・グループ」(the Contact Group on Piracy off the Coast of Somalia: CGPCS)を結成した。会合では、海賊容疑者を拘束し、起訴する意志を持つ国の能力を強化するための現実的選択肢が検討された。また、国際司法機関の設置を含む、その他の海賊対処措置も検討された。

コンタクト・グループには、オーストラリア、中国、デンマーク、ジブチ、エジプト、フランス、ドイツ、ギリシャ、インド、イタリア、日本、ケニア、オランダ、オマーン、ロシア、サウジアラビア、ソマリア暫定連邦政府、韓国、スペイン、トルコ、アラブ首長国連邦、英国、米国及びイエメンの24カ国、アフリカ連合(AU)、国際独立タンカー船主協会(INTERTANKO)、国際海事局(IMB)、統合戦争委員会(JWC)及びボルチック国際海運協議会(BIMCO)の5つの国際機関が参加した。

この会合で、海賊問題を多様な側面から検討するために、4つの作業部会の設置が合意された。作業部会1は、軍事、作戦調整及び情報共有と地域調整センターの設置に関わる活動を担当し、英国がIMOの支援を得て召集する。部会2は、国連薬物犯罪事務所(UNODC)の支援を得て海賊の司法問題を扱い、デンマークが召集する。部会3は、米国が召集し、IMOの支援を得て船舶の自衛やその他の能力強化について検討する。エジプトが召集する部会4は、海賊に関わるあらゆる外交的努力の強化について検討する。(Relief Web, January 20, 2009)

1月16日「IMB、2008年報告書を公表」(Maritime Global Net, January 16, 2009)

国際海事局(the International Maritime Bureau: IMB)はクアラルンプールにある海賊通報センター(Piracy Reporting Centre)を通じて、2009年1月16日、2008年に世界で起きた船舶への海賊行為と武装強盗事案に関する報告書を公表した。それによれば、全世界で293件の襲撃事案があったが、その内、111件がアデン湾とソマリア沖であった。同報告書の詳細は、2.情報分析参照。

1月16日「ソマリアの海賊、デンマーク船を解放」(iol, January 16, 2009)

ソマリアの海賊は16日、デンマークの海運会社用船の貨物船、MV *CEC Future* (7,120DWT)を、13人の乗組員と共に解放した。身代金は14日にパラシュートで投下され、海賊は現金を確認した後、15日に高速ボートで該船を離れた。身代金の額は明らかにされていないが、海運会社の幹部は、現在の身代金相場が100~200万米ドル程度であると語った。該船はバハマ籍船で、中東からアジアに向かう途中、2008年11月7日にアデン湾でハイジャックされた。同幹部は、身代金の支払いについて、困難なディレンマであったとし、「支払は彼らをエンカレッジするが、適切な防衛措置がない限り、これが我々の生き残る道である」と語った。

1月20日「韓国閣議、ソマリア沖への海軍戦闘艦派遣を決定」(The Korea Herald, January 21, 2009)

韓国は20日、ソマリア沖に海軍戦闘艦を派遣することを閣議決定した。国防省によれば、派遣されるのは、忠武公李舜臣級駆逐艦、姜邯賛(基準排水量4,500トン)で、兵員約310人、3隻の高速ボートとヘリ1機を搭載する。派遣期間は、2009年末までだが、延長される可能性もあるという。派遣費用は約280億ウォン(2,000万米ドル)が見込まれている。韓国が国際的な海軍による活動に

参加するのは初めてで、米軍主導の多国籍海軍部隊による哨戒活動に参加することになると見られる。

姜邯贊（基準排水量 4,500 トン）

朝鮮日報 2007 年 10 月 2 日

1 月 21 日「スペイン国会、EU 艦隊への部隊派遣を承認」(Shiptalk, January 21, 2009)

スペイン国会は 21 日、EU 艦隊への海軍戦闘艦 2 隻と 395 人の兵員派遣を承認した。スペインは既に、2008 年 9 月に P-3 哨戒機を 70 人の兵員と共にジブチのフランス空軍基地に派遣している。国会承認によって、これらの戦闘艦と部隊は、EU 艦隊の構成部隊として行動することになる。チャコン国防相は国会で、海賊との闘いはスペインの地理戦略的、経済的国益の防衛にとって極めて重要であると共に、スペイン漁船団に対する護衛を提供することにもなる、と強調した。スペインは、3 カ月交代制の EU 艦隊の現場指揮を、現在のギリシャの次に執ることになっている。

1 月 22 日「ソマリアの海賊、リベリア籍船を解放」(Shiptalk, January 23, 2009)

ソマリアの海賊は 22 日、リベリア籍船のケミカルタンカー、MT *Biscaglia* (2 万 7,350DWT) を解放した。該船は 2008 年 11 月 28 日、31 人の乗組員と共にアデン湾でハイジャックされた。その内、3 人の保安要員は、海中に飛び込んで脱出し、その後救出された。身代金が支払われたかどうかは、明らかになっていない。

1 月 27 日「米国・ケニア、海賊容疑者引き渡し協定調印」(VOA News, January 27, 2009)

米国とケニアは 27 日、ケニア沿岸で拘束した海賊容疑者を、ケニアの法廷に引き渡す協定覚書を調印した。海賊容疑者の処罰については、関係国で検討されているが、駐ケニア米国大使によれば、米国は今後、東アフリカ沿岸で拘束した海賊容疑者を処罰するためにケニア政府に引き渡すことになる。

1 月 27 日「フランス海軍、日本関係船への襲撃阻止、9 人の海賊容疑者を拘束」(AFP, January 27 and Maritime Global Net, January 28, 2009)

フランス海軍のフリゲート、*Le Floreal* は 27 日、アデン湾で、商船三井 (Mitsui OSK Lines: MOL) の関係船、原油タンカー (マルタ籍船)、MT *African Ruby* (15 万 DWT) からの救難信号を受けて、ヘリを発進させ、2 隻の小型高速ボートを発見し、警告射撃でボートを停船させ、その後、ボートに

乗っていた 9 人の海賊容疑者を拘束した。フランス海軍による海賊容疑者の拘束は、2008 年 4 月以来、7 回目で 57 人となった。

MT *African Ruby* (15 万 DWT)

<http://www.shipspotting.com/modules/myalbum/photo.php?lid=120615&cid=155>

以下の写真は海賊容疑者を拘束した時の様子

The skiffs are stopped by the Panther

Team approach in access control of the Panther

Gun at the ready - Interception of pirates by the EPR

Interception of pirates by the EPR

View from Le Floreal

Le Floreal

出典：以上の写真は以下の URL による。

<http://fredfryinternational.blogspot.com/2009/01/french-frigate-floreal-captures-nine.html>

【関連記事】

「フランス海軍、海賊容疑者をソマリア当局に引き渡し」(Xinhua, January 29, 2009)

フランス海軍は 29 日、拘束した 9 人の海賊容疑者を、アデン湾に面したボーサーソの港で、ソマリアのプントランド自治政府当局に引き渡した。自治政府の治安大臣は、彼らは裁判にかけられるまで拘置される、と語った。

1 月 29 日「ソマリアの海賊、LPG タンカーをハイジャック」(Lloyd's List, January 29, 2009)

ソマリアの海賊は 29 日、ドイツの海運会社用船のバハマ籍船 LPG タンカー、MT *Longchamp* (4,316DWT) をハイジャックした。該船の乗組員は 12 人のフィリピン人と 1 人のインドネシア人で、安全回廊 (MPSA) を航行中の出来事であった。海運会社は、ハイジャック時、海賊は哨戒中の各国海軍戦闘艦を分散させるため、同時に 3 隻の船舶を襲撃し、不幸にもハイジャックされたのが該船であった、と語っている。該船は乾舷の低い小型船である。同社によれば、インド海軍の戦闘艦が襲撃を撃退しようとしたが、遅すぎた。同艦は、安全な距離から該船を見守った後、現場を去った。

MT Longchamp (4,316DWT)

Source: Fairplay Daily News, January 29

<http://www.mschoa.eu/FairplayStoryDisplay.aspx?articlename=dn0020090129000015>**1月29日「9カ国、ソマリア海賊対策協力協定に調印」(AFP, January 29, 2009)**

インド洋、アデンでソマリアの海賊による影響を被っている、ジブチ、エチオピア、ケニア、マダカスカル、モルディブ、セーシェル、ソマリア、タンザニア及びイエメンの9カ国は29日、海賊対処における協力強化に関する協定に調印した。IMOの後援を得て、ジブチで開催された会議で調印された協定は、モンバサ（ケニア）、ダルエスサラーム（タンザニア）及びサナ（イエメン）の3カ所に、情報センターを設立することを規定している。また、同協定は、海賊容疑者を拘束し、処罰するために、各国の法律を必要に応じて改正すべきことを求めている。

1月29日「イタリア、EU艦隊に新たに戦闘艦1隻増派」(Lloyd's List, January 29, 2009)

イタリアは、EU派遣艦隊に114人の乗組員と共にフリゲート1隻を新たに増派する。イタリア海運業界は、増派のためのロビー活動を行ってきた。

1月29日「スウェーデン、ソマリア沖に海軍戦闘艦派遣」(Ministry for Foreign Affairs, Sweden, Press release, January 29, 2009)

スウェーデン政府は29日、コルベット2隻、支援艦1隻及び治安部隊からなる、約160人規模の部隊を、ソマリア沖に派遣することを決定した。派遣は、国連安保理決議に基づき、国連世界食糧計画（WFP）の支援要請に応えるものである。派遣には、国会の承認が必要である。

1月31日「中国運輸省、ソマリア派遣艦隊を賞賛」(Xinhua, January 31, 2009)

中国運輸省は31日、1月6日のソマリア沖到着以来、この1カ月間で10回の任務で、24隻の船舶を護衛したとして、ソマリア派遣艦隊を賞賛した。

1.2 軍事

1月2日「ロシア太平洋艦隊派遣部隊、アラビア海に」(Ecoterra International, January 2, 2009)

ロシア太平洋艦隊消息筋によれば、駆逐艦、*Admiral Vinogradov* を旗艦とする太平洋艦隊派遣部隊は2日、アラビア海に入り、2008年10月末以来ソマリア沖で対海賊哨戒任務を遂行中のバルト艦隊のフリゲート、*Neustrashimy* と合流した。太平洋艦隊派遣部隊には、他に救難用タグボート、*Foty Krylov* と給油艦、*Boris Butoma*、*Pechenga* が含まれる。この艦隊には、現在、南アフリカのケープタウンに向かっている北洋艦隊の原子力ミサイル巡洋艦、*Pyotr Veliky* が北上し、合流することになっている。

【関連記事】

「ロシア原子力巡洋艦、ケープタウン寄港」(RIA Novosti, January 12, 2009)

ロシア海軍広報官によれば、ロシア海軍の原子力ミサイル巡洋艦、*Pyotr Veliky* を旗艦とする6隻のロシア艦隊は12日、南アフリカのケープタウンに寄港した。14日まで滞在し、その後、太平洋艦隊の艦艇と共に、インド海軍との演習、INDRA-2009に参加する。

同艦は当初、1月9日～12日の間、ケープタウンに寄港することになっていた。しかしながら、南アフリカの原子力委員会 (the South African National Nuclear Regulator: NNR) は6日、ロシア海軍の原子力ミサイル巡洋艦、*Pyotr Veliky* のケープタウン寄港申請を不許可としていた。同艦が寄港申請基準を満たしておらず、また、南アフリカ当局が同艦の全般的な安全性にも懸念を持っていたためとされる。(The Times, South Africa, January 6, 2009)

1月8日「インドネシア海軍、2隻の国産艇就役」(Jakarta Globe, January 8, 2009)

インドネシア海軍は8日、2隻のPC-40級国産艇を就役させた。2隻は、ジャカルタに司令部を置く西部艦隊に配属される。海軍報道官によれば、インドネシア海軍の現有勢力は146隻になったが、依然128隻が不足している。

PC-40 級国産艇

<http://picasaweb.google.com/kobus.nl/NavalVessels?feat=embedwebsite#5289216072199724146>

1月10日「米空母、ジョージ・ブッシュ就役」(The Washington Post, January 11, 2009)

米海軍の13隻目の現役空母、USS *George H.W. Bush* が10日、就役した。同空母は、*Nimitz* 級の10番艦で、最後の同級空母となる。艦名は第41代大統領に由来し、就役式には、父の元大統領と

共に、ブッシュ大統領が出席した

1月16日「シンガポール、新型フリゲートの配備完了」(MINDEF, Singapore, Press Release, January 16, 2009)

シンガポール海軍の新型フリゲート、*Formidable* 級（排水量 3,200 トン）の 6 隻の内、最後の 2 隻が 16 日に就役し、配備計画が完了した。シンガポールのヒーン国防相は就役式典で、新型フリゲートの配備によって、シンガポールのシーレーン防衛能力が大幅に強化される、と語った。

RSS *Formidable* at sea

http://www.mindef.gov.sg/etc/medialib/imindef_media_library/photos/news_release/2005/aug.Par.0009.Image.gif?direct=1

1月20日「中国、2008年国防白書公表」(PLA Daily, January 21, 2009)

中国政府は 20 日、「2008 年国防白書」を発表した。白書では「強大な海軍力の建設に努力する」とし、海軍力をこれまで以上に増強する姿勢を示した。白書は、「海軍は、近海防衛戦略実施上の必要性に基づき、情報化を近代化の方針及び戦略的重点として位置づけ、強大な海軍の整備を行っている」と述べている。

備考：2008 年国防白書は以下の参照。

http://english.chinamil.com.cn/site2/special-reports/2009-01/21/content_1627631.htm

1.3 外交・国際関係

1月9日「米国、新米国北極海政策を発表」(Office of the Press Secretary, White House HP, January 9, 2009)

米国のブッシュ大統領は 9 日、北極海政策に関する大統領令 (NSPD-66/HSPD-25) に署名した。同大統領令は主に以下の政策を提唱している。

- (1) 北極海に関して国家安全保障および本土防衛上の必要性を満たすこと。
- (2) 北極海の環境を保護し、生物資源の保全を図ること。
- (3) 資源管理と経済発展を環境的に持続可能な方式で行うこと。
- (4) 北極海国家 8 カ国（米国、カナダ、デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、ロシア、スウェーデン）の間で協力制度を強化すること。

- (5) 新たな航路の開発に当たっては環境への影響を考慮しながら行うこと。
- (6) 北極海の先住民の生活に影響を与える決定を下す際には彼らの声を聞くこと。
- (7) 科学的観測を強化し、局所的・地域的・地球規模の環境問題の研究を行うこと。

備考：大統領令全文は以下を参照。

<http://www.whitehouse.gov/news/releases/2009/01/20090112-3.html>

北極海を巡る係争図

http://3.bp.blogspot.com/_E-QOnTGFX_o/SXCQ2diL5eI/AAAAAAAAAGUI/Aer69zk t4RQ/s1600-h/_44032849_arctic_russia416.gif

【解説】

ブッシュ大統領の大統領令署名は、オバマ新政権への移行を数日後に控えての署名であったが、気候変動によって北極海をめぐる状況が激変する中、1994年にクリントン政権下で制定された北極海政策の見直しは2年にわたって行われてきたのである。同大統領令は「合衆国は北極海国家である」との記述からはじまり、北極海に幅広い国家安全保障上の利益を有していることから、単独または他国と協力してこの利益を守っていくことを唱っている。

今回の大統領令に示された新北極海政策は非常に包括的であるが、単なる課題の羅列で、優先事項の提示がないとの批判もある。まず、カナダやロシアが北極海での存在感を強めていることを受けて、同大統領令も北極海での利益を保護し、存在感を示すためにより積極的に取り組むとすると共に、北西航路も北極海（北方）航路も国際航路であることを改めて確認している。そして、北極海での米国の領土と権利を守るために必要な装備と能力を保有するとしているが、沿岸警備隊が必要としている砕氷船隊の拡大については言及していない。また、北極海にはかなりの石油・天然ガスが眠っていると予想されているため、環境保全の観点からの資源・エネルギー開発を提唱しているが、環境派は、北極海での資源開発は航行、漁業、環境等、人類の活動の増加と相俟って生態学上の問題を引き起こすと警告している。

新北極海政策がもたらす当面の期待は、上院での国連海洋法条約（UNCLOS）の加盟の動きに弾みをつけることであろう。同大統領令は北極海に関する法的基盤を提供する同条約への加盟を求めている

る。北極海をめぐる排他的経済水域と大陸棚の境界をめぐる調整が関係諸国の間で必要となるが(地図参照)、UNCLOS に加盟していない状態では米国はこれらをめぐる話し合いの席に着くことができない。米国はカナダとビューフォート(Beaufort)海をめぐる境界画定紛争も抱えている。同条約への加盟はこの問題の解決にも役立つであろう。オバマ政権で国連海洋法条約加盟に向けた動きは強まるとみられ、ヒラリー・クリントン国務長官は、上院での指名承認に関する公聴会で北極海政策について言及し、国連海洋法条約への加盟が最優先課題であると証言している。

1.4 海運・資源・環境・その他

1月8日「LNGタンカー隻数、300隻を超える」(Maritime Global Net, January 8, 2009)

英国のLNG World Shippingによれば、世界のLNGタンカーの就役隻数は300隻を超えた。それによれば、LNGタンカーは、100隻に達するまでは34年を要し、200隻に達するまで更に8年を要したが、それからわずか2年半で300隻に達した。300隻目のLNGタンカーは、韓国の三星重工で建造された、MT *Tangguh Jaya* で、2008年12月29日にK Line と PT Meratus Line (インドネシア)に引き渡された。MT *Tangguh Jaya* は、インドネシアのパプア(Papua)州に新設された、Tangguh LNG 輸出プラントから中国、韓国及び北米西岸向け輸出に使用される、15万5,000立米のタンク容量を持つタンカーで、韓国で建造される7隻の内の1隻である。これらのタンカーは、2008年11月から2009年5月までの間に引き渡されることになっている。Tangguh LNG 輸出プラントは、2009年第2四半期に操業開始予定である。

LNG World Shippingによれば、2011年までに世界で更に89隻のLNGタンカーが就役することになっている。

1月22日「ソマリアの海賊、インド洋のマグロ漁を直撃」(Reuters, January 22, 2009)

インド洋のマグロ漁は、ソマリアの海賊の影響で、2008年の漁獲量は最大で30%減となっている。インド洋マグロ委員会(the Indian Ocean Tuna Commission)によれば、インド洋のマグロ漁は60億米ドル規模で、セーシェルに漁業基地を置くフランスとスペインは、8月から11月にかけてソマリア沖で年間漁獲量の3分の2近くを水揚げしていた。しかしながら、漁船団は、ソマリア沖からかなり東方沖で操業しなければならなかったし、漁獲量も通常の50%程度であった。約50隻の両国のマグロ漁船がセーシエルの首都、ビクトリア港を基地として、年間35万トン程度の水揚げをしていたが、ここ2年連続して減少している。セーシェルでは、マグロ漁と関連産業が外貨収入の40%程度を占めており、外貨収入も大幅に減少すると予測されている。

2. 情報分析

2008年の海賊行為と武装強盗事案（IMB 年次報告書から）

国際海事局（the International Maritime Bureau: IMB）はクアラルンプールにある海賊通報センター（Piracy Reporting Centre）を通じて、2009年1月16日、2008年に世界で起きた船舶への海賊行為と武装強盗事案に関する報告書を公表した。IMBの定義によれば、海賊（Piracy）と武装強盗（Armed Robbery）とは、「強盗あるいはその他の犯罪に及ぶ明らかな意図を持って、そしてこれらの行為をするに当たって武器を使用する明らかな意図あるいは能力を持って、船舶に乗り込む、あるいは乗り込もうとする行為」をいう。この定義には、該船が入港中、投錨中、航行中のいずれを問わず、既遂、未遂の全ての行為が含まれているが、ナイフで武装していない窃盗は除かれている。以下は、報告書の主な内容である。

1. 発生（未遂を含む）件数と発生海域から見た特徴

表1：最近6年間のアジア及びその他の多発海域での年間発生（未遂を含む）件数の推移

海 域	2003	2004	2005	2006	2007	2008
インドネシア	121	94	79	50	43	28
マラッカ海峡	28	38	12	11	7	2
マレーシア	5	9	3	10	9	10
フィリピン	12	4		6	6	7
シンガポール海峡	2	8	7	5	3	6
タイ/タイ湾	2	4	1	1	2	
南シナ海	2	8	6	1	3	
ベトナム	15	4	10	3	5	11
バングラデシュ	58	17	21	47	15	12
インド	27	15	15	5	11	10
アデン湾・紅海*	18	8	10	10	13	92
ソマリア	3	2	35	10	31	19
ナイジェリア	39	28	16	12	42	40
タンザニア	5	2	7	9	11	14
各年の通年合計*	445	329	276	239	263	293

出典：2008年報告書5～6ページの表1から作成。

注*：紅海での発生事案は通報なし。アデン湾の襲撃事案はソマリアの海賊による。

注**：各年の通年合計発生件数は、報告書の全ての対象海域を含む。

表1に見るように、2008年に通報された全発生件数は293件であった。その内訳は、既遂が200件（2007年187件）で、その内、ハイジャックが49件（同18件）で、乗り込み事案が151件（同169件）であった。未遂事案は93件（同76件）で、その内、発砲が46件（同14件）、乗り込み未

遂事案が 47 件 (同 62 件) であった。この件数は、2007 年の 263 件からは 30 件、11% 余の増となっている。これは、過去 6 年間で最も多かった 2003 年の 445 件、2004 年の 329 件に比べれば件数は少ないが、過去 6 年間で初めて 2 年連続で対前年比 10% を超える増加となった。

発生海域から見れば、2008 年の全発生件数 293 件の 3 分の 2 以上、216 件が 7 カ所の海域で発生している。即ち、多い順に見れば、アデン湾 92 件 (2007 年 13 件)、ナイジェリア 40 件 (同 42 件)、インドネシア群島水域 28 件 (同 43 件)、ソマリア 19 件 (同 31 件)、タンザニア 14 件 (同 11 件)、バングラデシュ 12 件 (同 15 件)、ベトナム 11 件 (同 5 件) となっている。

これによれば、ソマリア沖とアデン湾での発生件数は合計 111 件となり、全発生件数の 3 分の 1 弱を占め、2007 年の 44 件に比して、200% 近い増加となっている。報告書によれば、この海域でハイジャックされた船舶は 42 隻 (アデン湾 32 隻、ソマリア沖 10 隻)、人質の数は 815 人に達し、未解放のまま越年した船舶は 13 隻、人質の数は 242 人であった。全世界でのハイジャック件数は 49 件、人質数は 889 人であったことを見れば、2008 年はこの海域での異常さが目立った。報告書は、ソマリアの海賊による襲撃は全て船舶のハイジャックを狙いとしており、従って未遂事案は全てハイジャックに失敗した事案である、と指摘している。

111 件の内訳を見れば、アデン湾での発生件数が激増している。アデン湾の 92 件の内訳は、既遂事案が 34 件 (乗り込み事案 2 件、ハイジャック 32 件) で、未遂が 58 件 (発砲 31 件、乗り込み未遂 27 件) であった。ソマリアの場合は、19 件中、既遂が 10 件 (いずれもハイジャック) で、未遂が 9 件 (発砲 8 件、乗り込み未遂 1 件) であった。ソマリア沖での発生件数が減少しているが、報告書によれば、ソマリアの東部及び南部沿岸海域でも襲撃事案が再発しつつあり、遠くケニア、タンザニア沖でも発生している。事実、11 月 15 日に発生した、31 万 8,000DWT の大型原油タンカー (VLCC)、MT *Sirius Star* のハイジャックは、ソマリアの海賊にハイジャックされた船舶では、これまでで最も大型であり、更に襲撃海域も沿岸から最も離れた海域、ケニアのモンバサ港の南東 450 カイリ余の公海であった。報告書は、こうした遠隔の海域での襲撃のために、海賊は「母船」を使用しており、これらの「母船」は小型ボートを発進させるために沿岸から遠く離れた海域にまで進出できる、と指摘している。

アフリカ西岸のナイジェリアは 2 番目に発生件数多い海域で、40 件の内、乗り込み事案が 27 件、ハイジャック事案が 5 件であった。報告書によれば、アデン湾・ソマリア沖との大きな相違は、ナイジェリアでの事案のほとんどが領海内で発生していることである。しかも、非常に暴力的で、目標船舶の乗組員はしばしば負傷させられたり、拉致されたりしている。ナイジェリア・デルタにおける襲撃の目標は石油産業で、17 件がタンカーを目標としたものであった。

一方、東南アジアの海域では、減少傾向が見られた。例えば、インドネシア群島水域での発生件数はこの海域では依然最も多いが、2003 年の 121 件から毎年確実に減少してきており、2008 年は対前年比大幅減となっている。28 件中、既遂事案が 26 件 (乗り込み事案 25 件、ハイジャック 1 件)、未遂事案が 2 件 (発砲 1 件、乗り込み未遂 1 件) であった。またマラッカ海峡での発生件数も 2005 年以降大幅に減少してきており、2008 年はわずか 2 件 (いずれも未遂) であった。しかしながら、シンガポール海峡では 6 件で、倍増している (乗り込み事案 5 件、同未遂 1 件)。マレーシア (東岸) でも 1 件増となっており、ハイジャック事案が 3 件、乗り込み事案が 7 件となっている (いずれも既遂事案)。アジアの海域では他に、ベトナムの 11 件 (内、乗り込み事案 10 件、同未遂 1 件) が目立っている。

報告書は、こうした減少傾向を歓迎し、沿岸各国の監視、哨戒活動強化の累積的効果の現れと評価している。しかし報告書は一方で、世界的な経済情勢の悪化が海賊を増やす可能性があるとして指摘し、各国海軍や沿岸警備隊による対応の継続を求めている。

2. 態様から見た特徴

表 2 : アジア及びその他の多発海域での既遂事案の該船の状況

海 域	停泊中	投錨中	航行中	情報なし
インドネシア	2	13	11	
マレーシア	1	4	5	
フィリピン		3	2	
シンガポール海峡		1	4	
ベトナム	1	8	1	
バングラデシュ	2	9	1	
インド		8	1	
アデン湾			34	
ソマリア			10	
ナイジェリア	8	14	8	
タンザニア		7	7	
小計*	17	95	87	1
合計*	200			

出典：2008年報告書 11 ページの表 4 から作成。

注*：報告書の全ての対象海域を含む件数。

表 2 に見るように、2008 年の既遂事案 200 件の内、停泊中 (berthed) が 17 件 (2007 年 22 件)、錨泊中 (anchored) が 95 件 (同 105 件) で、航行中 (steaming) が 87 件 (同 53 件) で、情報なし (not stated) が 1 件 (同 7 件) であった。一方、未遂事案 93 件の内、停泊中が 2 件 (2007 年 1 件)、錨泊中が 9 件 (同 17 件)、航行中が 82 件 (同 58 件) であった。

アデン湾・ソマリア沖の既遂事案について見れば、その全てが航行中の事案で、この海域の海賊が「母船」を使用して、航行船舶のハイジャックを狙いとしている特性を反映している。

他方、報告書によれば、2008 年に停泊中と錨泊中に 3 回以上の襲撃件数が報告された港湾と泊地は世界で 13 カ所 (2007 年 20 カ所)、その内 10 回以上は 3 カ所 (同 3 カ所) であった。ナイジェリアのラゴスが 22 件 (同 25 件) で、この 2 年間、発生件数から見る限り、世界で最も危険な港となっている。次いで多かったのがタンザニアのダルエスサラームで 12 件 (同 11 件)、バングラデシュのチッタゴン 11 件 (同 15 件) だが、2006 年の 46 件以降、減少してきている。アジアでは、インドネシアのベラワン 6 件 (同 9 件)、ジャカルタ・タンジュン・プリオク 4 件 (同 3 件)、フィリピンのマニラが 3 件 (同 5 件)、及びベトナムのブンタウ 6 件 (同 3 件) であった。報告書によれば、タンザニアのダルエスサラームとバングラデシュのチッタゴン襲撃方法は類似しており、停泊中と錨泊中の船舶が目標となっている。但し、チッタゴンの武装強盗は船舶の備品などを盗むのに対して、ダルエスサラームでは船舶の積荷が狙われている。ベトナムのブンタウの武装強盗も船舶の備品などを盗んでいる。

3. 襲撃された船舶のタイプ

表 3 : 襲撃件数の多い船舶のタイプ

船舶のタイプ	2003	2004	2005	2006	2007	2008
Bulk Carrier	114	73	81	57	32	48
Container	56	48	30	49	53	49
General Cargo	73	38	46	30	36	38
Refrigerated	7	10	3	3	7	8
Tanker Chemical / Product	49	56	43	35	52	55
Tanker Crude Oil	42	17	22	9	25	30
Tanker LPG	14	13	5	4	5	6
Trawler / Fishing	28	18	7	18	16	9
Tug	19	24	13	9	7	16
Yacht	15	11	7	10	8	9
各年の全襲撃件数*	445	329	276	239	263	293

出典：2008年報告書16ページの表から作成。

注*：他のタイプの船舶を含む。

表3に見るように、襲撃される件数の多い船舶のタイプはこの6年間、ほとんど変わっていない。因みに2008年に襲撃された船舶のタイプは全部で25タイプであり、ナイジェリアでの石油施設補給船5隻を除いて、その他のタイプは1~3件であった。

4. 人的被害と使用武器の特徴

(1) 人的被害

表4に示したように、乗組員の人的被害状況について見れば、2008年は人的被害の総数は1,011人で、2007年の433人、2006年の317人に比して激増している。特にアデン湾・ソマリア沖での襲撃事案の特性を反映して、人質事案が2007年の292人から889人と、ほぼ3倍に近い激増ぶりである。

表 4 : 2003年以降の乗組員の人的被害状況

状 況	2003	2004	2005	2006	2007	2008
人質	359	148	440	188	292	889
拉致・身代金要求		86	13	77	63	42
乗組員脅迫	65	34	14	17	6	9
乗組員襲撃	40	12	6	2	29	7
乗組員負傷	88	59	24	15	35	32
乗組員死亡	21	32	—	15	5	11
行方不明	71	30	12	3	3	21
各年合計	644	401	509	317	433	1,011

出典：2008年報告書13ページの表8から作成。

人的被害の発生場所から見れば、人質事案 889 人中、815 人がアデン湾・ソマリア沖での人質である。その内、アデン湾が 629 人（2007 年 23 人）、ソマリア沖が 186 人（同 154 人）となっており、2008 年の人質事案はアデン湾に集中している。これは、この海域の海賊が船舶のハイジャックを狙いとし、積荷と乗組員を人質に身代金を要求するという特性を反映したものである。

一方、乗組員を拉致し、身代金を要求する事案は、ナイジェリアでの襲撃事案の特徴である。拉致・身代金要求事案の 42 人中、ナイジェリアが 39 人（2007 年は 63 人中 40 人）となっている。この事案はアデン湾では見られず、他にはソマリア沖で 3 人であった。

東南アジアでの人的被害状況の内訳を見れば、インドネシアでは、人質 16 人（2007 年 8 人）、脅迫 4 人（同 2 人）、負傷 2 人（同 1 人）、行方不明 6 人（同 1 人）であった。マレーシアでは、人質 26 人（同 9 人）、襲撃 1 人（同 6 人）、負傷 1 人（同 4 人）であった。2008 年の死亡事案 11 人中、フィリピンが 7 人となっており、これは乗員を乗せた漁船やボートが海賊に発砲された事案によるものであった。他の死亡事案は、アデン湾 3 人とソマリア沖 1 人で、人質の数に比して死亡事案がほとんどない、この海域での海賊事案の特性が見られる。

(2) 使用武器

表 5 に見るように、海賊の使用武器から見ても、アデン湾・ソマリア沖とナイジェリアにおける海賊事案の特性と危険性が伺える。2008 年の全発生件数 293 年中銃器が使用された事案が 139 件（2007 年 263 件中、72 件）であった。これを発生場所から見れば、アデン湾が 85 件（同 3 件）、ナイジェリアが 18 件（同 19 件）、ソマリア沖が 17 件（同 19 件）となっている。

他方、ナイフを使った襲撃事案では、全 68 件中、最も多いのがインドネシアで 13 件（2007 年 67 件中、10 件）、ナイジェリアが 10 件（同 14 件）となっている。アジアでは、バングラデシュが 5 件（同 11 件）、ベトナム 5 件（同 2 件）、シンガポール海峡 4 件（同 1 件）など、ナイフを使用して、船舶備品や乗組員の持ち物を盗む強盗事案が多いのが特徴である。

表 5：2008 年のアジア及びその他の多発海域での襲撃事案の使用武器

場所／武器のタイプ	銃器	ナイフ	その他の武器	情報なし
インドネシア	4	13	1	10
マラッカ海峡				2
マレーシア	4	3		3
フィリピン	2	3		2
シンガポール海峡	1	4		1
ベトナム		5		6
バングラデシュ	1	5	1	5
インド		3		7
アデン湾	85			7
ソマリア	17			2
ナイジェリア	18	10	2	10
タンザニア		8		6
小計*	139	68	6	80
合計*	293			

出典：2008 年報告書 15 ページの表 10 から作成。

注*：件数は報告書の全ての対象海域を含む。

別添1：海洋政策研究財団作成資料

IMB 報告書等に見る 2008 年アデン湾・ソマリア沖ハイジャック事案とその後の状況

2008 年 12 月 31 日現在

船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船舶のタイプ	旗国
<i>Svitzer Korsakov</i> (A)	2.1	3.18(46)	6	Tug Boat	St.Vincent & Grenadines
<i>Brum Ocean</i> (A)	4.1	4.1(1)	34	Fishing Vessel	Yemen
<i>Playa De Bakio</i> (S)	4.2	4.25(23)	26	Fishing Vessel	Canary Islands
<i>Le Ponant</i> (A)	4.4	4.11(7)	30	Passenger Vessel	France
<i>Al-Khaleej</i> (S)	4.21	4.21(1)	16	General Cargo	UAE
<i>Victoria</i> (S)	5.17	5.23(6)	21	General Cargo	Jordan
<i>Amiya Scan</i> (A)	5.25	6.24(30)	9	General Cargo	Antigua & Barbuda
<i>Lehmann Timber</i> (A)	5.28	7.7(40)	15	General Cargo	Gibraltar
<i>Rockall</i> (S)	6.23	解放日不明	3	Yacht	不明
<i>Stella Maris</i> * (A)	7.20	10.9 (81)	21	Bulk Carrier	Panama
<i>Yenegroa Ocean</i> (S) §	8.4		8	Tug/Supply Vessel	Panama
<i>Thor Star</i> (A)	8.12	10.14 (62)	28	General Cargo	Thailand
<i>Bunga Melati Dua</i> (A)	8.19	9.29 (40)	39 (1)	Chemical Tanker	Malaysia
<i>Iran Deyanat</i> (A)	8.21	10.10 (49)	29	Bulk Carrier	Iran
<i>BBC Trinidad</i> (A)	8.21	9.11 (20)	13	General Cargo	Antigua & Barbuda
<i>Irene</i> * (A)	8.21	10.9 (48)	19	Chemical Tanker	Panama
<i>Bunga Melati Lima</i> (A)	8.29	9.27 (28)	41	Chemical Tanker	Malaysia
<i>Carre D'as IV</i> (A)	9.2	9.15 (13)	2	Yacht	France
<i>Al Mansourah</i> (A)	9.3	9.27 (24)	25	Bulk Carrier	Egypt
<i>Bright Ruby</i> (A)	9.10	10.16 (36)	21	General Cargo	South Korea
<i>Stolt Valor</i> * (A)	9.15	11.16 (62)	22	Chemical Tanker	Hong Kong
<i>Great Creation</i> (A)	9.18	11.19 (63)	25	Bulk Carrier	Hong Kong
<i>Centauri</i> (S)	9.18	11.27 (70)	25	Bulk Carrier	Marta
<i>Captain Stefanos</i> (S)	9.21	12.8 (78)	19	Bulk Carrier	Bahamas
<i>Faina</i> ** (S)	9.25	2009.2.5 (130)	21(1)	Ro-Ro vessel	Belize
<i>Genoius</i> (A)	9.26	11.19 (53)	19	Chemical Tanker	Liberia
<i>Wael H</i> (A)	10.9	10.14 (5)	11	General Cargo	Panama
<i>Action</i> (A)	10.10	12.12 (63)	20 (1)	Chemical Tanker	Panama
<i>Shri Shiv Shamboo</i> (A)	10.14	10.23 (9)	13	Dhow	India
<i>African Sanderling</i> * (A)	10.15	2009.1.11 (88)	21	Bulk Carrier	Panama
<i>Yasa Neslihan</i> (A)	10.29	2009.1.7 (70)	20	Bulk Carrier	Marshall Island

船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船舶のタイプ	旗国
<i>CEC Future</i> (A)	11.7	2009.1.16 (70)	13	General Cargo	Bahamas
<i>Stolt Strength</i> (A)	11.10		23	Chemical Tanker	Philippines
<i>Karagol</i> (A)	11.12	2009.1.13 (61)	14	Chemical Tanker	Turkey
<i>Tian Yu.8*</i> (S)	11.14	2009.2.8 (87)	24	Fishing Boat	China
<i>Sirius Star***</i> (S)	11.15	2009.1.9 (55)	25	Crude Oil Tanker	Liberia
<i>Chemstar Venus*</i> (A)	11.15	2009.2.12 (58)	23	Chemical Tanker	Panama
<i>Delight</i> (A)	11.18	2009.1.9 (53)	25	Bulk Carrier	Hong Kong
<i>Ekawatnava 5</i> (A)****	11.18	11.18	16 (15)	Fishing Vessel	Kiribati
<i>Amani</i> (A) #	11.25	11.30 (5)	7	General Cargo	Yemen
<i>Biscaglia</i> (A)	11.28	2009.1.22 (55)	28	Chemical Tanker	Liberia
<i>Faluja</i> (A) #	12.10	12.27 (17)	10	Fishing Vessel	Yemen
<i>Al-Qana's</i> (A) #	12.10	2009.1.2 (23)	8	Fishing Vessel	Yemen
<i>Masindra 7&AMD 1</i> (A)	12.16		11	Tug Boat & Barge	Malaysia
<i>Bosphorus Prodigy</i> (A)	12.16	2009.2.3 (49)	11	General Cargo	Antigua & Barbuda

出典：” Piracy And Armed Robbery Against Ships: 1 January - 31 December 2008,” ICC International Maritime Bureau, January 16, 2009, pp.55-61. 及びその他の報道資料のデータを加えて作成。

IMB の 2008 年報告書によれば、2008 年にアデン湾、ソマリア沖で 111 件の海賊襲撃事案があり、その内、ハイジャック事案が 42 件であった。12 月 31 日現在で、13 隻が拘束されているとしている。上記表では、その他の資料も引用しているのでハイジャック件数は 45 件、越年した拘束船舶は 15 隻となっている。(上記表には、2009 年 1 月以降の解放情報を付け加えた。) IMB の統計は IMB への通報ベースとなっており、報告書は未通報事案があることを認めている。従って資料によっては件数に若干の相違があることは否めない。

なお、# 印のアデン湾でハイジャックされたイエメン籍船、*Amani*、*Faluja*、*Al-Qana's* は、IMB の報告書にはなく、その他の報道資料による。

注：上記表中の (S) はソマリア沖を、(A) はアデン湾でのハイジャック事案を示す。

備考 \$: *Yenegoa Ocean* については、前掲 IMB2008 年報告書では、該船と乗組員の所在は不明となっている。他方、NATO Shipping Centre の Somalia Piracy Update Slide では、「アフリカ

の角」の先端部に近いアデン湾に面した、Caluula 近郊に拘留されていることを示している。2009年1月25日付の *Ecoterra International* によれば、1月24日に該船のハイジャッカーの間で銃撃戦があり、4人が死亡したが、乗組員のナイジェリア人には被害がなかったという。該船は、身代金受け取りのために、Hawo から Caluula に移動している。

備考* : 日本関係船を示す。 *Stella Maris* と *Irene* は興洋海運、 *African Sanderling* は長鋪汽船の関係船。 *Stolt Valor* も日本の海運会社関係船。 *Chemstar Venus* はイイノマリンサービスの関係船。 *Tian Yu.8* (マグロ漁船) は中国の天津遠洋漁業公司所属で、船長は日本人。

** : MV *Faina* には、ケニア向けとされる 33 両のロシア製 T-72 戦車と相当量の弾薬や軍事装備が積載されている。解放に当たっては、320 万米ドルの身代金が支払われたとされる。身代金は小型機からパラシュートで船上に投下された。

*** : MT *Sirius Star* は、31 万 8,000DWT の大型原油タンカー (VLCC) で、ハイジャック時には 200 万バレルの原油を積載していた。該船は、ソマリアの海賊にハイジャックされた船舶では、これまでで最も大型であり、更に襲撃海域も沿岸から最も離れた海域、ケニアのモンバサ港の南東 450 カイリ余の公海であった。該船は 2009 年 1 月 9 日に 55 日ぶりに解放された。解放に当たっては 300 万米ドルの身代金が支払われたとされるが、身代金は小型機からパラシュートで船上に投下された。身代金を受け取ったハイジャッカーは 2 隻のボートで引き上げたが、途中、強風で 1 隻が沈没した。乗っていた 9 人の内、4 人が海岸に泳ぎ着いたが、他の 5 人は死亡したと見られる。ボートと共に、身代金の一部も海底に消えた。

**** : 該船はその後、インド海軍フリゲート、INS *Tabar* が 11 月 18 日に撃沈した海賊の「母船」と見られる船であったことが判明した。乗組員 16 人の内、14 人が行方不明で、1 人は 6 日後にアデン湾を漂流中に発見、救助され、もう 1 人は死亡が確認された。INS *Tabar* に遭遇した時、該船は海賊の制圧下にあった。

別添 2 : 海洋政策研究財団作成資料

1. 2009 年におけるアデン湾・ソマリア沖のハイジャック事案の状況

2 月 15 日現在

船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船舶のタイプ	旗国
<i>Blue Star</i> (A)	1.1		28	General Cargo	St Kitts & Nevis
<i>Sea Princess II</i> (A)	1.2			Tanker	Panama
(A)	1.3			General Cargo	Yemen
<i>Longchamp</i> (A)	1.29		13	LPG Tanker	Bahamas

出典：各種の報道資料から作成。空欄箇所は不明。

注：上記表中の (S) はソマリア沖を、(A) はアデン湾でのハイジャック事案を示す。

2. 2008 年におけるアデン湾・ソマリア沖のハイジャック事案中、未解決事案の状況

2 月 15 日現在

船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船舶のタイプ	旗国
<i>Yenegoa Ocean</i> (S) #	8.5		8	Tug/Supply Vessel	Panama
<i>Faina</i> ** (S)	9.25	2009.2.5 (130)	21(1)	Ro-Ro vessel	Belize
<i>African Sanderling</i> *(A)	10.15	2009.1.11 (88)	21	Bulk Carrier	Panama
<i>Yasa Neslihan</i> (A)	10.29	2009.1.7 (70)	20	Bulk Carrier	Marshall Island
<i>CEC Future</i> (A)	11.7	2009.1.16 (70)	13	General Cargo	Bahamas
<i>Stolt Strength</i> (A)	11.10		23	Chemical Tanker	Philippines
<i>Karagol</i> (A)	11.12	2009.1.13 (61)	14	Chemical Tanker	Turkey
<i>Tian Yu.8</i> * (S)	11.13	2009.2.8 (87)	24	Fishing Vessel	China
<i>Sirius Star</i> *** (S)	11.15	2009.1.9 (55)	25	Crude Oil Tanker	Liberia
<i>Chemstar Venus</i> * (A)	11.15	2009.2.12 (58)	23	Chemical Tanker	Panama
<i>Delight</i> (A)	11.18	2009.1.9 (53)	25	Bulk Carrier	Hong Kong

船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船舶のタイプ	旗国
<i>Biscaglia</i> (A)	11.28	2009.1.22 (55)	28	Chemical Tanker	Liberia
<i>Al-Qana's</i> (A)	12.10	2009.1.2 (23)	8	Fishing Boat	Yemen
<i>Masindra 7</i> (A)	12.16		11	Tug Boat	Malaysia
<i>Bosphorus Prodigy</i> (A)	12.16	2009.2.3 (49)	11	General Cargo	Antigua & Barbuda

出典：” Piracy And Armed Robbery Against Ships: 1 January - 31 December 2008,” ICC International Maritime Bureau, January 16, 2009, pp.55-61. 及びその他の報道資料のデータを加えて作成。

注：上記表中の (S) はソマリア沖を、(A) はアデン湾でのハイジャック事案を示す。

備考#： *Yenegoa Ocean* については、前掲 IMB2008 年報告書では、該船と乗組員の所在は不明となっている。他方、NATO Shipping Centre の Somalia Piracy Update Slide では、「アフリカの角」の先端部に近いアデン湾に面した、Caluula 近郊に拘留されていることを示している。2009年1月25日付の Ecoterra International によれば、1月24日に該船のハイジャッカーの間で銃撃戦があり、4人が死亡したが、乗組員のナイジェリア人には被害がなかったという。該船は、身代金受け取りのために、Hawo から Caluula に移動している。

備考*：日本関係船を示す。 *African Sanderling* は長鋪汽船の関係船。 *Chemstar Venus* はイイノマリナーサービスの関係船。 *Tian Yu.8* (マグロ漁船) は中国の天津遠洋漁業公司所属で、船長は日本人。

**： *MV Faina* には、ケニア向けとされる 33 両のロシア製 T-72 戦車と相当量の弾薬や軍事装備が積載されている。解放に当たっては、320 万米ドルの身代金が支払われたとされる。身代金は小型機からパラシュートで船上に投下された。

***： *MT Sirius Star* は、31 万 8,000DWT の VLCC で、ハイジャック時には 1 億ドル相当の 200 万バレルの原油を積載していた。該船は、ソマリアの海賊にハイジャックされた船舶では最も大型で、襲撃海域も沿岸から最も離れた海域、ケニアのモンバサ港の南東 450 カイリ余の公海であった。解放に当たっては 300 万米ドルの身代金が支払われたとされるが、身代金は小型機からパラシュートで投下された。身代金を受け取ったハイジャッカーは 2 隻のボートで引き上げたが、途中、強風で 1 隻が沈没した。乗っていた 9 人の内、4 人が海岸に泳ぎ着いたが、他の 5 人は死亡したと見られる。ボートと共に、身代金の一部も海底に消えた。

リンク先

AFP	http://www.afp.com/home/
AP	http://www.ap.org/
BBC News	http://www.news.bbc.co.uk/
Capital News	http://www.capitalfm.co.ke/news/index.php
China Post Online	http://www.chinapost.com.tw/
Combined Maritime Forces Public Affairs	http://www.navy.mil/local/CTF-151/
Ecoterra International	http://www.businesspatrol.com/country-links/ecoterra-international,9870.html
iol	http://www.iol.co.za/
Jakarta Globe	http://www.thejakartaglobe.com/
Lloyd's List	http://www.lloydslist.com/ll/home/index.htm
Maritime Global Net	http://www.mgn.com/
MINDEF, Singapore	http://www.mindef.gov.sg/imindef/home.html
Ministry for foreign Affairs, Sweden	http://www.sweden.gov.se/
Navy News Stand	http://www.navy.mil/swf/index.asp
Office of the Press secretary, White House HP	http://www.whitehouse.gov/
PLA Daily	http://english.chinamil.com.cn/
Relief Web	http://www.reliefweb.int/rw/dbc.nsf/doc100?OpenForm
Reuters	http://www.reuters.com/
RIA Novosti	http://en.rian.ru/
Shiptalk	http://www.shiptalk.com/
Strategy Page	http://www.strategypage.com/
The Central News Agency	http://www.cna.com.tw/cnaeng/
The Copenhagen Post	http://www.cphpost.dk/news.html
The Jakarta Globe	http://www.thejakartaglobe.com/
The Korea Herald	http://www.mindef.gov.sg/imindef/home.html
The Taipei Times	http://www.taipeitimes.com/News/
The Times, South Africa	http://www.thetimes.co.za/Home.aspx
The Washington Post	http://www.washingtonpost.com/
Trade Winds	http://www.tradewinds.no/
VOA News	http://www.voanews.com/english/portal.cfm
Xinhua (新華社)	http://www.xinhuanet.com/english/
Yemen News Agency	http://www.sabanews.net/en/

海洋政策研究財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目15番16号 海洋船舶ビル3F
TEL.03-3502-1828 FAX.03-3502-2033

((財)シップ・アンド・オーシャン財団は、標記名称にて活動しています)